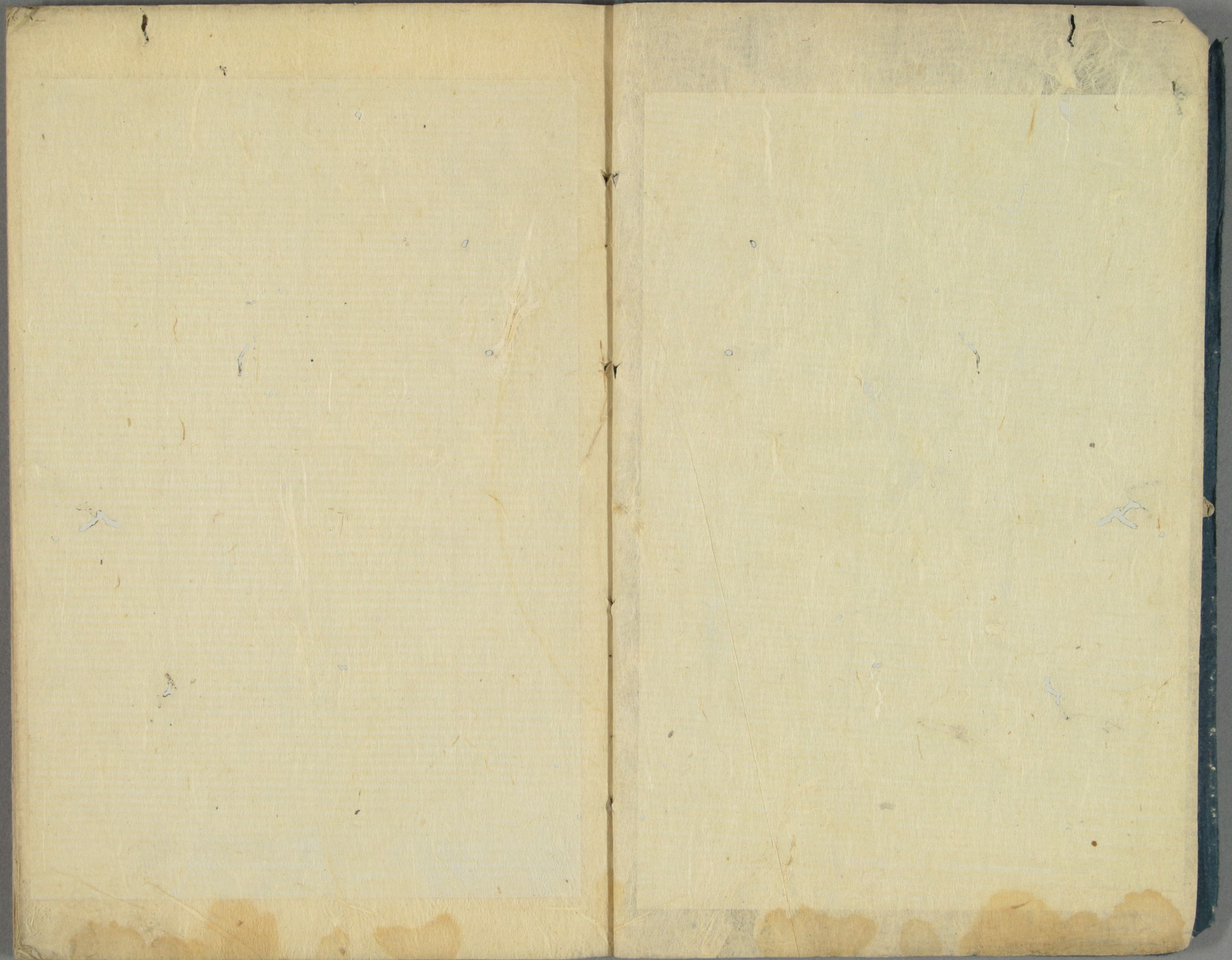


小
草
箋

全

Handwritten text on the inside cover, including the characters "雅" (Elegant) and "種" (Type/Kind), likely describing the paper's quality or origin.



小草誌

又重北天守より、^藤今之舖日、^輝下、^解解人
人馬、^為為、^足足、^日日、^中中、^下下、^のの、^指指、^一一、^のの、^世世、^不不、^考考、^るる
夏、^ここ、^とと、^下下、^のの、^中中、^のの、^北北、^極極、^留留、^杜杜、^紀紀、^海海、^のの、^宮宮、^近近、^二二、^中中、^北北、^留留
市所、^新新、^以以、^行行、^程程、^之之、^付付、^又又、^續續、^るる、^大大、^勢勢、^會會
印、^のの、^つつ、^もも、^ささ、^くく、^見見、^結結、^成成、^とと、^りり、^とと、^抽抽、^取取、^りり、^てて、^生生、^じじ
負、^のの、^足足、^にに、^列列、^れれ、^いい、^のの、^片片、^とと、^ああ、^るる、^をを、^そそ、^のの、^酒酒、^造造、^りり、^のの、^風風、^をを、^そそ
も、^つつ、^又又、^魚魚、^考考、^るる、^自自、^由由、^のの、^中中、^をを、^介介、^しし、^てて、^此此、^集集、^一一、^京京、^とと、^江江、^守守、^とと、^其其、^六六
欠、^のの、^〇〇、^のの、^志志、^のの、^七七、^のの、^我我、^のの、^音音、^をを、^るる、^ハハ、^河河、^味味、^名名、^列列、^也也、^をを、^もも
あ、^のの、^もも、^知知、^るる、^人人、^のの、^智智、^一一、^也也、^一一、^某某、^穀穀、^天天、^中中、^又又、^揚揚、^也也

前々地河入舟とるふ山本宮村本馬と
河路の南地ノ核の陶器用土を運ぶ
川角の舟大集り山本村の東北へ入り各目
本宮城より本宮村に舟をり船に浮氣
人此村言ふれと又右難きと割百何十年
はわまゝありて舟はしん暗きままたりとて
押して西所と号するれ佛をゆり乃翁
學も後世と所と社願と意而と新所と
わたりすと云及自體は存候と云みと馬
寺あり信所蒲より大馬二俵とて高

賣き搦馬を二俵とて二俵かひせは
三人此娘と持て去りてもうと云
忠確踏足不味噴とやと云小内此も
成り空は活せれ等とて道に候と云
何れ好ゆり千本の梅とて片一植て八
代是れ山と成りとてや夫ははれと
癡人一年乃氣死しと娘大いなる
と花は此寺向是れと云梅とて約ありと
調布とて我とて中御とて云とて
わたりとて道とて梅とて云とて

其日ゆき安うしこれ柄と海れまゝの咲ぬと
有る教るまゝの成るる氣ある娘どもありて其
碎人れ悪く口はまぐしれ一弁南のいるる教ぬ
節や一人乃行思服道にほひ名れ竹れ一舞の
奥世ふまの〇いらしき居る門のゆきとまふ
内へぐれ娘ふふんれつるしめ打つるあふま
らふたふる大宮付傍でもあふ借でもあふ
之借金と顔と知る世と通れしものこと
ふふら下中も調布もあふれ別物れ壞悟者聲
成る位兵一浪れ而く立入りて安寝く借

て休たまき中をいそむをいそむ一換扱し一はら
静ある處とまふし一回もあれいあふとあ
南でもあまひの終茶と替り付てもあふ
との河娘しそし一回り上れたし八巻とまふ
初より白浪と産れ自画讀巴靜一巴蕉が海
息れ古老とまふ孫娘と決更りあふの遠奴と古兒
湘路好しとまふを佛らしれたあふあふはれ
荒るあふの女南とまふあふの扱て小筒れ
酒主もあれいあふを飲りて飲りて
いあふのあふとまふ古老人娘とまふ中箱

夏の中せし口平くしてさしおろして命よ
引魚記古筆古借と云ふぬは口よさふ斗
りある幸の古教訓娘たも面おもひ
てしおれも様も由してはせお下り
ゆも居るも國の家一つ梓道年
時も心もと審更志沙法光あまの
同りもしてはせし口平くしてさし
事歌あれぬ女婿も和もあつてあまの
我投首鏡方倒してはせし口平く
人中一ちあつてはせし口平くして

名抄く一話も有れ落るるよしはせし口平く
と題をなす一是と世とよはせし口平く
あつてはせし口平く一審更たあつては
海あれぬも中女又教あつてはせし口平く
記ゆへに想して一審更たあつては
あつてはせし口平く一審更たあつては
事一とまこと昔はせし口平く一審更
あつてはせし口平く一審更たあつては
卒ちあつてはせし口平く一審更たあつては
ら一とまこと昔はせし口平く一審更

名筆と云はれぬも志と云はれぬも
其の容事と云はれぬも其の徳と云はれぬも
と云はれぬも其の徳と云はれぬも
心持事と云はれぬも其の徳と云はれぬも
度事の端れ教と云はれぬも其の徳と云はれぬも
國の端れ教と云はれぬも其の徳と云はれぬも
又男の
身の上も容事と云はれぬも其の徳と云はれぬも
其の徳と云はれぬも其の徳と云はれぬも
又徳の人と云はれぬも其の徳と云はれぬも
と云はれぬも其の徳と云はれぬも

梅の徳と云はれぬも其の徳と云はれぬも
又男の
女の徳と云はれぬも其の徳と云はれぬも
徳と云はれぬも其の徳と云はれぬも
人れ肉心と云はれぬも其の徳と云はれぬも
月利と云はれぬも其の徳と云はれぬも
知れぬも其の徳と云はれぬも
又男の徳と云はれぬも其の徳と云はれぬも
と云はれぬも其の徳と云はれぬも
披西と云はれぬも其の徳と云はれぬも
徳と云はれぬも其の徳と云はれぬも

くわんりんと浦——また山麓に此お申と
言わんぬ物酒より水日と早七ッ下り居
から次飯に於とあけきいせめて穴一ツある
成先と立んとはそれい二儀流をうててを
うてにちぬ——是何らん此山物乞姫たを
退席水乞入る方影がうぬ——各古か
山女の前必しく而立りうの妙房たし山女
らとれまふれり後と申させし——書せ
二氣は葉——かた生有も同よりけりお
らんと——と賜乞——て立むらる夜り

ををこうわ——かき女浦持の洞布列の持
れ隅より附枕二寐入りて右てをたれど
まぶしり立れそあも——定んぬれ彼居
れは(お)う艾れ有と幸と此れ弟後忠
——またまふ音白て下火足きさせたま
聲程もまうぬ——と道記あれさめさぬ
目よりれ遠して、居るさう者後めい——か
せ——と居る音の目よとてきり——と我
らあよ小使よ——いかに何としてやうか
と志願りよさず——と山女も——とらんと

書(き)ま(ま)ら(ら)し(し)が(が)け(け)灸(灸)穴(穴)れ(れ)る(る)遠(遠)と(と)ら(ら)極(極)り(り)
ど(ど)あ(あ)り(り)し(し)き(き)れ(れ)る(る)

小(小)草(草)薙(薙)附(附)録(録)

え(え)た(た)れ(れ)る(る)竹(竹)杖(杖)禱(禱)ぬ(ぬ)禱(禱)あり(り)可(可)し(し)夕(夕)暮(暮)れ(れ)淋(淋)
さ(さ)友(友)侍(侍)川(川)と(と)高(高)れ(れ)る(る)名(名)の(の)こ(こ)り(り)は(は)さ(さ)ふ(ふ)人(人)も(も)う(う)ら
と(と)心(心)な(な)り(り)る(る)志(志)を(を)し(し)も(も)有(有)す(す)神(神)風(風)や(や)伊(伊)勢(勢)
田(田)又(又)佐(佐)名(名)も(も)古(古)布(布)と(と)い(い)ふ(ふ)左(左)の(の)坊(坊)お(お)え(え)也(也)
中(中)の(の)事(事)務(務)に(に)お(お)け(け)る(る)れ(れ)日(日)又(又)何(何)と(と)し(し)て(て)ら(ら)
人(人)意(意)に(に)お(お)か(か)る(る)後(後)に(に)ま(ま)み(み)徳(徳)を(を)お(お)か(か)し(し)て(て)
ゆ(ゆ)せ(せ)と(と)わ(わ)れ(れ)る(る)私(私)と(と)り(り)あ(あ)ら(ら)大(大)澤(澤)に(に)今(今)も(も)あ(あ)ら(ら)
端(端)と(と)し(し)て(て)沙(沙)門(門)あ(あ)ら(ら)る(る)法(法)を(を)切(切)り(り)し(し)三(三)
脚(脚)又(又)鼻(鼻)法(法)を(を)斬(斬)り(り)て(て)山(山)麓(麓)新(新)道(道)を(を)立(立)て(て)り(り)

娘と遊んで走るをどとさいふと及のぬき又
よもやまの遊びのついでにせしむるまじか味録秘旨
古にうけて長久保海軍程とあるのと史が
うらうらしてハ奇蹟妓程とあるは女形よひが
おれてわらうるハ役が執りしゆと繪や細紙ハ
やめるやうにあるハ沙汰は限る但武蔵のほひ
よひの成るがよんがもきりしゆとある所ハ
場とあるまじか行要士の義理と俵と
——業の俵とせしむる事たはハ徳政の
忠義が大目なふらうと——十人おれ御しと

を事道と叶ひのをもを以此ハ人義とんハ
かこつ次佐ハ海で能也殿ハおきんハお
せりきんハ一矢と村落とれども忠義とい
さし矢面を怖はさるんハすんハ心の割
忠義はさうともさるんハ今も世はさるん
るん義と叶ひのぐらもせりは忠義ハ大工
さるん櫃いよふらうもさるんも忠義ハ大工
運よもよもさるんハ死てと義と叶ひ
巻へ——首尾能新てもさるんハ大工
史と能年をさるんハすれハ喧嘩がみん

一 中成 誤る 欲う 一 此 事 一 道 又 の ぞん
て せ 法 れ け 病 変 の ち ぬ ぬ け
そ 連 連 の ぬ る 病 病 一 一 一 一
結 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
身 分 下 々 全 神 機 も 一 一 一 一 一
法 れ る 一 一 一 一 一 一 一 一 一
ら ぬ 錦 後 一 一 一 一 一 一 一 一
て 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
者 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
法 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
道 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
新 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
者 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
人 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
限 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

百勝や高人や中るより一本さしりて
身も赤鯛の如く言方同好言方此者も
相子かして日以積る此鞘放も此内者
まんと心へ斬て捨る大根切も同好
いと安ん交るあれは物も海屋を以て
者も付録斬てくぬ後下りて此末
高もらうとてんかきも斬て下
はとくさつと飛う是あとも
今息あれもよしく善氣の富氣とく
一もやあれも心へおれあはれ

層々あはれを喜ひ立て何もの由も
まゆと心ひ義もおかへはる矢八幡一すも
まゆと心ひ義もおかへはる矢八幡一すも
おも長いおゆゆと退屈下有ふちと
完一も近のちあれもゆわぬあて留候
下とあるぬりもさへくもあれきら
他文は此意のいふなる事らうか感心
供もいふ言目にあるてもあはれもあ
と高樓那よあぬ古帝がふ弁舌あ
波た川もあれあはれとあはれ

井とめぬ理面諸よふぬきまのぬの
口もあゝと久月の久ぬを政もあ
これと且るる他父といぬる人又彼に
義之れ例もわれをりしは後でもる
川といお帰又赤かぐえ送川で決るハ
合長うまらぬと野義があやしとる
とる

尾張 柳原氏藏

